

## 昭和戦前期の大阪府堺市における和音感教育 2

### ——記録映画『子どもと歌(耳と国防)』について(前篇)——

Prewar Kindergarten and Elementary School Music Education in Sakai City, Part II :  
Remarks on the First Half of the Documentary Movie “Children and Songs : Listening Skills and National Defense”

菅 道 子  
Michiko KAN  
(音楽教室)

2011年10月14日受理

#### はじめに

1930年代後半から1940年代にかけて、大阪府堺市では全国に先駆けて和音感教育を5園の公立幼稚園と20校の尋常小学校で実施したことが知られている<sup>1</sup>。この和音感教育を主導したのは1934(S 9)年～1943(S 13)年まで堺市視学であった佐藤吉五郎(1902(M 35)年～1991(H 3)年)であった<sup>2</sup>。佐藤は1926(T 15)年から1934(S 9)年まで勤めた岡山県女子師範学校時代に、移動階名唱の指導では、読譜力、和音感、鍵盤楽器の演奏能力などにおいて十分な成果が得られないとの問題意識をもって<sup>3</sup>。また彼は義姉の同僚であった東京の小石川区金富尋常小学校の訓導佐々木幸徳の音名唱法による和音感教育を参観して影響を受け<sup>4</sup>、和音感教育を取り入れようと考えたのだった。

市を挙げて取り組んだ堺市の和音感教育は、全国から注目されるものとなった。その拠点校の一つであった英彰小学校には、年間三千人の参観者があったという<sup>5</sup>。堺市では研究大会、講習会の開催の他、ラジオ放送、SPレコードの録音<sup>6</sup>、そして記録映画などマスメディアを使った普及・宣伝を積極的に実施していった。佐藤自身も和音感教育の実際を『和音感教育』(三喜堂、1940年)(1941年には国民学校に合わせてイロハ音名に変更し、抽出唱訓練、和音聴音を併用するリズム訓練を加えた改訂版を出版)、『和音感合唱教授法』(三喜堂、1943年)などにまとめて出版した。1930年代はマスメディアの普及によって、文化や政治のメッセージが大量・高速に大衆の中に伝播していくようになった時代である。堺市の和音感教育はこうしたメディアを媒介として急速に認知されていったと考えられる。なかでも、音源資料SPレコード『和音感教育の実際』(日本ビクター、1940年)や本稿で取り扱う記録映画『音楽と子ども(耳と国防その1)』(東亜発声ニュース映画製作所、1940年)は「音」そのものが記録されており、音楽教育の普及促進の重要な媒体になったと考えられる。

また、現在においても、これらの資料は、そこで営まれていた実際の和音感教育を「音」や教師や子どものやりとりとして把握することのできる貴重な記録と

なる。そこで本稿では記録映画『子どもと歌(耳と国防その1)』の再録を行うこととする。

#### 1. 記録映画『子どもと歌(耳と国防)』(東亜発声ニュース映画製作所)について

記録映画『子どもと歌(耳と国防)』は1940年に東亜発声ニュース映画製作所によって作られたものである。映像の所蔵先は、堺市立第一幼稚園である。本稿では、VHSテープにダビングされ資料室に保管されていたものを資料として視聴させていただいた。

東亜発声ニュース映画製作所についての詳細は現在のところ不明である。しかし、国立近代美術フィルムセンターに所蔵されている同製作所の作品をみると『ヴァイオリン』(ドキュメンタリー 1941-12-23)、『光と文化』(ドキュメンタリー 1940-05-13)など音楽・文化関係のものを比較的多く取り扱っていることがわかる。

冒頭のテロップには、協賛として堺市市長：河盛安之助、堺市学務課長：今西四良、指導に堺市視学：佐藤吉五郎の名前があげられ、堺市の行政として映画制作に協力していたことがわかる。

次のテロップには和音感教育の趣旨が以下のように示されている<sup>7</sup>。

「子供は音楽が好きです。殊に歌ふことには優れた天分を持ってゐるのです。この天分をより高く伸ばすには美しい良い音楽を与へると同時に音に対して敏感となる訓練をしなければなりません。

音に敏感で正確な耳こそ音楽のみならず、我が国防・科学・産業等凡ゆる方面の発展的基礎となるのであります。

これはその新音楽教育の一つの実例であります即ち音楽教育と謂はれてゐるものでその音名の呼び方には日本語のイロハ 独逸語のABCなどあり こゝでは独逸音名が使用されてゐます」

ここで和音感教育は、天分を持った子どもたちを伸ばすために「美しい良い音楽」と「音に対して敏感と

なる訓練」が必要であると述べられるとともに、「我が国防・科学・産業等」の発達の基礎としても音感教育が有用であると述べられている。また、ここでは音名唱法を独逸音名で行っていることも特徴的である。なぜならば1941年からはイロハ音名唱法にかわるからである。

上記のような趣旨で作られた映画では、第一幼稚園と英彰小学校を撮影地として和音感教育の様子が撮影されている。映画は20分弱の作品で、幼稚園の部は11分、小学校の部が9分ほどで記録されている。本稿では、前篇として幼稚園での記録を再録することとする。

記録では時間と場面ごとの番号、分類、内容、参考資料の項目を作り掲載している。

## 2. 第一幼稚園での遊戯を取り入れた和音感教育

### 2-1 第一幼稚園と和音感教育について

撮影された第一幼稚園は堺市で最も古くに創設された幼稚園である。1886(M19)年5月1日開口神社内に幼稚園をもうけて幼児57名を収容し「私立堺幼稚園」として開園したのがその始まりといわれる。次第に入園児が増え堺県師範学校寄宿舎跡に移転し、1887(M20)年3月に移転し「公立幼稚園」として開園式が行われた。その後経済的な行き詰まり等で1889(M22)年に一度廃園したが、1899(M32)年に発起人が府に願い出て、同年10月に改めて開口神社の連歌所を仮園舎として開園した<sup>8</sup>。堺市で最も古い第一幼稚園は、幼稚園教育の拠点であり、和音感教育ももっとも活潑に行われたのだった。

和音感教育を実施していた1937(S12)年～1945(S20)年までの間に2人の園長が赴任した。1937(S12)年から1942(S17)年は、北山ナホ園長、同時期の教員には佐々木静子、坂上(吉村)勝子、森田(吉川)、近江、里井、1942(S17)年～1945(S20)年は、佐々木静子園長、

同時期の教員には大道(入間)綾子、里井、藤井、坂上(吉村)勝子、森田の名前が記念写真に記されている<sup>9</sup>。

その時期に採った和音感教育実施の方針は以下の通りであった<sup>10</sup>。

- ①ドレミ式移動階名唱法を全廃する
- ②新たに独乙音名(固定音名唱)を採用する
- ③和音聴音を課す
- ④分割唱を課す
- ⑤カデンツ訓練を行う
- ⑥リズム訓練を励行する
- ⑦歌曲は当分聴唱法を採用する

佐藤は、玉石混交の教師陣を一斉に各組での和音感教育指導にあたらせるために、上述の内容を「型の如く実施」するよう指示したが、「無味乾燥になると思ったら、その反対で非常に活気が出て来た」と述べている<sup>11</sup>。というのも、幼稚園では、園長以外は全員音楽を担当するように指示し、新しい遊戯の考案を課し、毎週実地教育を公開するという形で研究をスタートさせたためであった<sup>12</sup>。幼稚園の教師たちの研究は子どもたちが興味をもって和音に親しむための教具作りであり、その実用新案特許は80以上にもなった<sup>13</sup>。それらの遊戯活動の中に和音感教育が取り入れられていったのである。

映画を作成した1940年当時園長をしていた北山ナホは、その後1941年4月～1942年2月まで9回、『国民保育』(1(4)、(5)、(6)、(7)、(8)、(9)、(10)、(11)、2(2))に第一幼稚園の和音感教育の実践を報告している。『子どもと歌(耳と国防)』の映画の中に出てくる〈五指に依る音名練習唱歌〉〈鳩ポッポの歌〉(二部合唱)なども北山ナホの記事の中に紹介されている。映像では、上記のようにして試行錯誤された遊戯活動も含めて幼稚園の3クラスの園児たちの和音感教育の様子が紹介されている。

### 2-2 『子どもと音楽(耳と国防)その1』の記録

(筆者の加筆した説明) ●場面、○黒板の板書、( )補足説明、♪曲

| 時間   | 場面 | 分類           | 内 容  | 参 考 資 料 |
|------|----|--------------|--|---------|
| 0    | ①  | テロップ・題目・制作情報 | テロップ1<br>耳と国防<br>子供と歌 昭和15年10月<br><br>テロップ2<br>監督 村田達二<br>撮影 藤田英次郎<br>録音 安部恒雄<br><br>テロップ3<br>協賛 堺市市長 河盛安之介<br>堺市学務課長 今西四良<br><br>テロップ4<br>音楽指導 堺市視学 佐藤吉五郎 |         |
| 0:38 | ②  | び手歌遊         | ♪《結んでひらいて》の替え歌 ニ長調 4/4拍子<br>オルガン伴奏   |         |

|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
|      |   | <p>結んで開いて手を打って結んで<br/>また開いて手を打って<br/>その手を耳に<br/>耳は二つで目が二つ<br/>鼻が一つに口一つ<br/>頭が一つに手が二本<br/>足が二本で指十本</p>   |   |
| 1:13 | ③ | <p>テロップ 5<br/>子供は音楽が好きです<br/>殊に歌ふことには優れた<br/>天分を持ってゐるのです<br/>この天分をより高く伸ばす<br/>には美しい良い音楽を<br/>与へると同時に音に対して敏感となる<br/>訓練をしなければなりません</p> <p>テロップ 6<br/>音に敏感で正確な耳こそ<br/>音楽のみならず<br/>我が国防・科学・産業等凡ゆる方面の発展的基礎となるので<br/>あります。</p> <p>テロップ 7<br/>これは<br/>その新音楽教育の<br/>一つの実例であります</p> <p>テロップ 8<br/>即ち 音感教育と<br/>謂はれてゐるもので<br/>その音名の呼び方には<br/>日本語のイロハ<br/>独逸語のABCなどあり<br/>こゝでは独逸音名が使用<br/>されてゐます</p>   |   |
| 1:46 | ④ | <p>●教室入場<br/>チャイム CFAFCFCFFAFFC<br/>(二列ずつに整列して部屋の中に入っていく、次ぎの場面が<br/>映っていく。<br/>・座って音当てをしているクラス<br/>・先生のお話を聴いているクラス<br/>・〈小さな庭〉をうたっているクラス)</p>   |   |
| 3:36 | ⑤ | <p>●五指による音名唱法<br/>○黒板に五線譜の板書あり。<br/>(先生が指を指しながら説明をしている)<br/>教 師：親指はお父さん、人差し指はお母さん、<br/>中指はお兄さん、薬指はお姉さん<br/>小指は赤ちゃん、それから、<br/>この間はみんなかわいいお友達です。<br/>さあ、今度はお手々を前に出してごらんさい。</p> <p>五指と音名との関係理解<br/>教 師：お父さんのお名前は<br/>園児たち：Fさん<br/>教 師：お母さんのお名前は<br/>園児たち：Dさん<br/>教 師：お兄さんのお名前は<br/>園児たち：Hさん<br/>教 師：お姉さんのお名前は<br/>園児たち：Gさん<br/>教 師：赤ちゃんのお名前は<br/>園児たち：Eさん</p> <p>♪《五指に依る音名練習唱歌》<br/>(椅子に座って手の指で音をさしながら歌う)<br/>これはわたしの 父さん Fさん<br/>これはわたしの 母さん Dさん<br/>これはわたしの 兄さん Hさん<br/>これはわたしの 姉さん Gさん<br/>これはわたしの 赤ちゃん Eさん</p> |  |

|      |   |  |   |
|------|---|--|---|
|      |   | <p>みんなわたしの お家のかたよ</p> <p>(一人の児童が黒板の顔つき五線譜の音を指しながら、〈五指に依る音名練習唱歌〉を歌う。)</p> <p>♪ 〈五指に依る音名練習唱歌〉</p> <p>これはわたしの 父さん Fさん</p> <p>これはわたしの 母さん Dさん</p> <p>これはわたしの 兄さん Hさん</p> <p>これはわたしの 姉さん Gさん</p> <p>これはわたしの 赤ちゃん Eさん</p> <p>みんなわたしの お家のかたよ</p> <p>Cさん、Dさん、Fさん、Aさん、Cさん、Eさん、Gさん、</p> <p>みんなわたしの おともだち。</p>  |    |
| 5:26 | ⑥ | <p>五線と音の関係理解</p> <p>(丸テーブルを囲んですわり、各自五線譜道具を出す)</p> <p>教 師：それじゃお箱からお友達を出しましょう</p> <p>Cをおきましょう</p> <p>Aをならべましょう</p> <p>Gをならべましょう</p>  |    |
| 5:50 | ⑦ | <p>二部合唱</p> <p>●《ポッポの時計》の二部合唱</p> <p>(鳩時計の音、園庭で遊ぶ風景)</p> <p>♪ 〈ポッポの時計〉へ長調 4分4拍子(一部二部合唱)</p> <p>おおきなハリが</p> <p>十時をさすと(二部)</p> <p>とけいのお家の 窓あけて(二部)</p> <p>かわい小さな 鳩がでる</p> <p>ポッポー、ポッポー、ポッポー(二部)</p>  |   |
| 6:29 | ⑧ | <p>和音と五指との関係理解</p> <p>●和音と五指との関係理解</p> <p>○黒板の 和音という字とCEG音の板書</p> <p>(先生が黒板の前に立って指しながら説明する)</p> <p>教 師：これはなんですか</p> <p>園児たち：CEG</p> <p>教 師：そうですね。CEGの中のこれ(Cの音)はお友達ですね。</p> <p>園児たち：はい</p> <p>教 師：これ(Eの音)は？</p> <p>園児たち：赤ちゃん</p> <p>教 師：これ(Gの音)は？</p> <p>園児たち：姉さん</p> <p>(今度は子どもが黒板の前に立ち和音を指しながら、先生がピアノを鳴らし、他の子どもたちが答える)</p> <p>教 師：先生が鳴らす音を言ってごらんさい。</p> <p>ピ ア ノ：CEG</p> <p>園児たち：CEG</p> <p>ピ ア ノ：CFA</p> <p>園児たち：CFA</p> <p>ピ ア ノ：HDG</p> <p>園児たち：HDG</p> <p>教 師：そうよくできましたね。</p> |  |
| 7:05 | ⑨ | <p>和音の聴き取りと裏の絵をあわせ</p> <p>教 師：ピアノの音をよく聴いて裏の絵をあわせましょうね</p> <p>ピ ア ノ：CFA</p> <p>園 児：CFA(床にある五線上のCFA和音を裏返す)</p> <p>ピ ア ノ：FAC</p> <p>園 児：FAC ありません。</p> <p>ピ ア ノ：HDG</p> <p>園 児：HDG(床にある五線上のHDG和音を裏返す)</p> <p>ピ ア ノ：FGH</p> <p>子 ど も：FGH ありません</p> <p>ピ ア ノ：CEG</p> <p>子 ど も：CEG(床にある五線上のCEG和音を裏返す)</p> <p>教 師：そうよくできましたね。</p>   |  |



|      |   |                      |  |   |
|------|---|----------------------|--|---|
| 7:45 | ⑩ | 和音聴音                 | <p>●和音聴音<br/>(椅子にすわって先生の弾く和音の音をあてる)</p> <p>ピ ア ノ : CEG<br/>園児たち : CEG<br/>ピ ア ノ : CFA<br/>園児たち : CFA<br/>ピ ア ノ : HDG<br/>園児たち : HDG<br/>ピ ア ノ : CEG<br/>園児たち : CEG<br/>ピ ア ノ : CFA<br/>園児たち : CFA<br/>ピ ア ノ : HDG<br/>園児たち : HDG<br/>ピ ア ノ : CEG<br/>園児たち : CEG</p>  |    |
| 7:55 | ⑪ | 五線と音符の理解             | <p>●五線と音符の理解<br/>(机に座って作業をする子どもたち)</p> <p>教 師 : CEGのところで朝顔の花を咲かしてちょうだい。<br/>(楽譜に花をつけるようにしている)</p>  |    |
| 8:06 | ⑫ | 赤ずきんちゃんのお話と和音聴音・和音唱  | <p>●赤ずきんちゃんのお話にあわせた和音聴音・和音唱<br/>(子どもたちは椅子にすわって教師の話聞いて。先生はそれぞれに絵のついたサイコロ型の箱(段々と小さくなる)を積上げながらお話をしている。)</p> <p>教 師 : お母さんのDさんは御門のところまで見送ってくださいました。赤ずきんちゃんのGさん、元気よくいっていらっしやい。<br/>それから道草をしないようにね。はい。<br/>それから、あまり遅くならないうちに帰ってくるんですよ。はい。<br/>赤ずきんちゃんは元気よくでかけていきました。<br/>お空がきれいに晴れて大変よいお天気です。<br/>橋をわたってだんだん行きますと、広い広い野はらにでました。たくさんお花が咲いています。<br/>ふいにガサッと大きな音がして木の陰からオオカミさんがお顔を出しました。<br/>オオカミさんのお名前は? (左手を開いて出し、5と4の指の間だを指して)</p> <p>園 児 : Fさん<br/>教 師 : そう、Fさんといいます。オオカミさんのFをだしましょう。<br/>ピ ア ノ : CFA<br/>園児たち : F<br/>教 師 : お花のAをだしましょう。<br/>ピ ア ノ : CFA<br/>園児たち : A<br/>教 師 : 赤ずきんちゃんのGをだしましょう。<br/>ピ ア ノ : CEG<br/>園児たち : G<br/>教 師 : お花のAをだしましょう<br/>ピ ア ノ : CFA<br/>園児たち : A<br/>教 師 : オオカミさんのFをだしましょう。<br/>ピ ア ノ : CFA<br/>園児たち : F<br/>教 師 : 赤ずきんちゃんのGをだしましょう<br/>ピ ア ノ : CEG</p> | <br><br> |
| 9:35 | ⑬ | セミトリアソビに合わせた和音聴音・和音唱 | <p>●セミトリアソビの遊びに合わせた和音聴音・和音唱<br/>教 師 : さあ、これから先生が叩くピアノの音がなんだか、この絵の中から当ててごらんさいね。<br/>園児たち : はい。<br/>(黒板には子どもの顔、虫、雨粒などを音符にした和音を書いた五線譜が貼られている。)</p>  |   |

|       |   |  |   |
|-------|---|--|---|
|       |   | <p>ピアノ：HDG<br/>園児たち：子ども<br/>ピアノ：GCE<br/>園児たち：せみ</p> <p>ピアノ：FGH<br/>園児たち：雨</p> <p>ピアノ：GHDF<br/>園児たち：かみなり</p> <p>教師：そう、よくできましたね。今度は音の名を言って書きましょう<br/>ピアノ：FAC<br/>園児：FAC</p> <p>ピアノ：GHD(G)<br/>園児：GHD</p> <p>ピアノ：CEG<br/>園児：CEG</p> <p>♪《セミトリアソビ》(ハ長調 4分の4拍子)<br/>(子どもたちは一人一人音の名札を付けてたって歌っている)<br/>夏がきたかと涼しい森の<br/>土の中からはい出して<br/>木の葉のかげのあちこちに<br/>ミーンミーンミーン、ミーン</p> <p>(二人の子ども(F・Aの音を下げた)が目立ち、綱をもった子どもが教師の言葉にあわせて指し示す)<br/>教師：右のせみさんは<br/>ピアノ：CFA(C)<br/>園児たち：A<br/>教師：左のせみさんは<br/>ピアノ：CFA<br/>園児たち：F<br/>教師：両方とも一緒に<br/>ピアノ：CFA<br/>園児たち：FA</p> |    |
| 11:00 | ⑭ | <p>●《小さいお庭》の遊戯<br/>(園庭でオルガンを出し、それを囲みながら遊戯を加えて歌っている。)<br/>♪《小さいお庭》<br/>小さいお庭をよくならして<br/>かわいい種をまきました。<br/>お日様にこにこ笑ってながめ<br/>雨はしょぼしょぼ水をまいた<br/>そのうち種に芽が生え出て<br/>土からかわいい頭をあげ<br/>だんだん伸びて夏がきたら<br/>つぼみができて花が咲いた。<br/>.....<br/>小学校の部へ</p> <p>小さな<br/>お庭の<br/>遊戯</p>   |    |

### 3. 映像の中の教材等について

前半の映像は14場面からなり、④から⑭までが幼稚園での和音感教育の活動である。

五指と音名(⑤)、五線と音名・和音(⑥、⑪)との関係理解、和音抽出唱(⑧、⑫、⑬)、和音聴音(⑨、⑩、⑬)、二部合唱(⑦)、手遊びのついた遊戯歌(①、⑭)の活動が見られた。

特徴的な活動の一つは⑤で行っている五指を使って音名との関係を覚える活動である。佐藤吉五郎の作詞作曲した《五指に依る音名練習唱歌》を活用している。

もう一つは遊びの活動の中に音感訓練が含まれているということである。⑨の活動では和音の聴き取りをして五線譜にあった和音を当ててその楽譜をめくると絵になっており、正解によって絵合わせができる遊びになっている。⑫の活動では、オオカミにはF、あかずきんちゃんにはG、お花にはA、というように、それぞれ音名が付けられている。そしてあかずきんちゃんのお話に出てくると登場人物の音名を和音抽出唱として歌うようにするものである。お話はサイコロ型の箱に書かれた絵を積上げながら、進められている。⑬の活

動は「セミトリアソビ」の活動である、セミには GCE、雨には FGH、かみなり GHDF というように、和音が付けられており、その和音を聴いて対応するものを当てたり、セミを担当している二人の音 F、A を和音抽出唱し、全体で和音唱をするという活動である。子どもたちに馴染みのある童話や生活題材によって興味を引き出しながら音感の習得を図ろうとした幼稚園教師たちの試行錯誤の様子が伺える。山下薫子が「音名と遊びとの繋がりが無関係」と指摘するように<sup>14</sup>、それぞれの登場人物と音名との音楽的な意味づけ、関連性がない点など音楽上の根本的な問題がある。しかしながら、園児たちの知っている具体物に音を対応させて音を記憶させることの方法上の効果はそれはそれとしてあるだろう。

三つ目には《ポッポの時計》の歌唱のように幼稚園児たちが二部合唱を歌えているということである。

彼らは「ポッポー ポッポー ポッポー」などの一部分を 3 度の音程でハーモニーを作り歌っている。当時、幼稚園児が二部で歌うということは画期的なことであった。

四つ目には、冒頭テロップでも、「その音名の呼び方には日本語のイロハ 独逸語の ABC などあり こゝでは独逸音名が使用されてゐます」とあるように<sup>15</sup>、1940 年段階では独逸音名で和音感訓練が展開されていることがあげられる。

その他、本映画の幼稚園の部で使用された楽曲は次の 5 曲であった。

《むすんでひらいて》の替え歌・手遊び歌(ルソー作曲、作詞不明)、《五指に依る音名練習唱歌》(ハ長調、4 分の 2 拍子、作詞作曲・佐藤吉五郎)、《ポッポの時計》(ハ長調 4 分 4 拍子、作詞作曲不明(一部二部合唱))、《セミトリアソビ》(ハ長調 4 分の 4 拍子)、《小さな庭》の遊び歌(ハ長またはハ長調、4 分の 4 拍子、作詞作曲不明)

### まとめにかえて

『子どもと歌(耳と国防)』は、1 つには「歌ふことには優れた天分」をもった子どもたちのそれを伸長することを目的として試行された和音感教育、新しい音楽教育を記録したものであった。そこには遊びながらも和音聴音や和音唱に集中している子どもたちと、子どもたちの天分の伸長のために次々と遊戯を考案していった教師たちの活気溢れる姿がみられた。音楽映画撮影時には教師の一人として加わった佐々木静子(1942 年～45 年の第一幼稚園園長)は「視学官佐藤・早勢両先生のご指導のもとに、私共職員一同は、幼児の為の楽しい音感基礎教育のあり方を求めて、若い情熱を傾け創作研究に励みました。…幼児の歌声も美しくあるクラスでは、二部合唱を歌いました。それは、美しいハーモニーで歌うのです。音楽専門家の参観者は、

『とても幼稚園とは思えない。音楽学校のような錯覚を覚える。』と賞賛されました。…文部省推薦となった、文化映画『子供と歌』のモデルとなったのも第一幼稚園で、名声の高い幼稚園でした。音感教育こそ、幼稚園音楽教育の基礎とすべき大切な教育であることを痛感致し、素晴らしい才能が育つ幼児たちを見て、私ども職員共々、感動を覚え幸せを感じました」と述べ<sup>16</sup>、園児たちの成長ぶりを実感していた。

しかし、もう一つには、副題にあるように「国防」としての音感教育のあり方が意識されていたことも事実である。幼稚園部の映像にはなかったものの、軍事的な内容を扱った遊戯も多く作られており、国防、科学の発展に資するものとして教師たちにも認識されていたと考えられる。子どもたちの「優れた天分の伸長」と「国防の発展」とが幼稚園の音感教育の中で両立していく、その奇異さは、歴史的な時間を経て、距離をもってみなければ自覚することは困難である。しかし、音楽教育の場がそうした奇異さを生み出す土壌を日常的にかかえていることをこの映画は映し出している。とりわけ本稿で扱わなかった小学校篇ではそのことも含めて、次稿にて述べていきたい。

本稿は、平成 21～23 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「課題番号：21530934 研究課題名 声とモノから探る戦時期の音楽教育実践史研究」の研究成果の一部である。

### 注

- 1 佐藤吉五郎「和音感教育実施成績報告」『教育音楽』1 月号、日本教育音楽協会発行、1940 年 1 月、pp.64-65。
- 2 佐藤吉五郎「音感教育四十年の回顧」『絶対音感による音楽教育法』柏苑社、1973 年、p.15。
- 3 佐藤吉五郎『和音を基調とする総合音楽教育法』音楽之友社、1958 年、pp.14-15。
- 4 前掲(注 2)、佐藤「音感教育四十年の回顧」、p.15。
- 5 佐藤吉五郎「戦中の音感教育 現場からの証言」『日本の音楽教育 '75』音楽之友社、1975 年、pp.191-192。
- 6 拙稿「昭和前期の大府堺市における和音感教育 1. 一音源資料 SP レコード『和音感教育の実際』について」『和歌山大学教育学部紀要』62 号、2012 年 3 月発行予定。
- 7 映画『子どもと歌(耳と国防)』東亜発声ニュース映画製作所、1940 年
- 8 堺市教育 100 年のあゆみ刊行委員会『堺市教育 100 年のあゆみ』(非売品)、1971 年、pp.134-135。
- 9 100 周年記念実行委員会『創立 100 周年記念誌 100 年のあゆみ』堺市立第一幼稚園、2002 年、pp.14-16、堺市立第一幼稚園「昭和十六年第三十九回保育修了記念帖」の写真より確認。
- 10 前掲(注 2)、佐藤吉五郎「音感教育四十年の回顧」、pp.221-222。
- 11 同上、佐藤、p.222。
- 12 同上、佐藤、p.222。
- 13 前掲(注 5)、佐藤「戦中の音感教育 現場からの証言」、p.75。

- 14 山下薫子「音感教育の功罪」河口道朗監修『音楽教育論叢  
第Ⅰ巻 音楽の思想と教育』開成出版、2005年、pp.208-  
225。
- 15 前掲(注7)、映画『子どもと歌(耳と国防)』。
- 16 佐藤静子「昭和17～20年七月空襲で焼けるまで」『創立90周  
年記念』堺市立第一幼稚園、1992年、pp.5-6。